

農村伝道神学校学報

学院校香
川神愛
鶴道良
学校法人 農村伝道神学校
発行人 平良愛香

玉山神学院との交流が再開しました

農村伝道神学校校長 平良愛香



ワリス院長と

新型コロナウイルス対策のため4年間途絶えていた台湾の玉山神学院との交流が再開し、2023年9月に農伝から2名の神学生を派遣しました（それぞれの神学生の台湾実習報告は次ページをご覧ください）。再開できた神学校交流の挨拶のためおよび実習中の神学生の激励のために9月11日（月）から15日（金）まで平良も台湾を訪ねることができました。通訳をお願いしていたデイヴァン・スタルマンさん（北海道区で働いている玉山神学院出身の宣教師）と11日に羽田空港で合

流。その晩は台北にて台湾長老教会（PCT）宣教師派遣部長の陳さんと食事をしながら、台湾や東南アジアのキリスト教の状況を教えてもらいました。陳さんは前日までシンガポールにいて、翌日からインドネシアだとのこと。

その後、平良とデイヴァンさんの共通の友人であり、台湾で日本からの宣教師として働いているうすきみどりさんと再会。台湾に住む人々の日本に対する「親日」の思いに戸惑うことが多いという話を伺うことができました。

12日（火）は済南教会（黄春生牧師）およびPCT（台湾長老教会）訪問。その後玉山神学院を訪ねることができました。早速神学院のスタッフの皆さん、そして先に台湾で実習を始めていた2名の農伝生と合流して合計12名での夕食会。ワリス院長からは、台湾長老教会に

安全保障関連法廃止！ 辺野古新基地建設反対！

は3つの神学校（台北神学院、玉山神学院、台南神学院）があるが、玉山は原住民（イエンツミ）台湾では「先住民」というと「既にいなくなった民族」というニュアンスがあるため、その土地に生きる人という意味をもつ「原住民」という言葉を用いる）のために作られた神学校であるという話や、そうであるにも関わらず台北や台南に入学者する原住民の学生が増えて来た（逆に原住民ではないけど玉山に入学者する学生も少しいる）といった話を伺い、その原因について考えていくことの必要性を語ってくださいました。いろいろな質問も投げかけられ、デイヴァンさんがアイヌの人権問題を、平良が琉球人遺骨返還請求訴訟の話をすることができました。

13日（水）はいくつかの原住民の教会を訪問。その途上、原住民の村内に作られてしまったセメント工場の前を通った際、「私たちが学生だった頃、地元の人たちと一緒にこの工場の前でデモを行ったんですよ」という話をデイヴァンさんに教えてもらい、農伝と似ている部分を実

感。また訪れた教会では日本による原住民への弾圧の話を知ることができました。台湾の漢民族と原住民とは日本から受けてきた弾圧にかなりの差があるのを感じます。運転手兼ガイドの李さんに教えてもらった「タロコ族は昔は7歳で入れ墨の1回目を入れ、14歳で入れ墨を完成させて大人となるが、日本占領時代に禁止された」という話は、沖縄のハジチ（女性の入れ墨）の話とまったく同じだと気づかされます（平良が子どものころは老人ホームに行くのとハジチを入れていた女性をよく見かけましたが、現在は全く見なくなりました）。

その晩は、ワリス院長、お連れ合いさん、デイヴァンさん、平良の4人で語り合うときが与えられました。原住民の部族語が玉山神学院で必須になっていること（話せない若い世代が増えてきている）。その部族語の講師がいない場合は、長期休暇中に部族語を教えることを村に委託していることなどを聴きながら、私は本気で琉球を重んじているのだろうか、沖縄語を話せないままであることを良しとしてはいなかったか、と問題を突き付けられました。一方LGBTの話では、ワリス院長から「大切な問題だと意識しているが、まだ抵抗を感じる人もいるため、もう少し時間がかかりそ

う。ぜひ平良に講師として来てほしい」と言われ、とても大きなお願いをされたと感じています。

14日（木）には農伝での実習を経験した玉山の卒業生たち5名（デイヴァンさん含む）と現在玉山で実習中の2名の農伝生、ほか数名のスタッフと一緒に、実習の感想や要望などについて語り合いました。台湾からの感想の「小さき者にしたのはすなわち私にしたのである」を実践している日本のキリスト教と出会った「日本で反原発の活動は初めて知り、台湾に戻って反原発に取り組みようになった」



三線披露 横がデイヴァンさん

という声に大きく励まされました。午前中だけの予定でしたが、想い出話なども盛り上がって1時間延長。15時からは始業礼拝。ワリス院長がセデック語で説教、プロジェクトでは中国語

の字幕。礼拝後平良が挨拶と三線の弾き語りを披露し、記念品としてその三線をプレゼントしてきました(後日「弾き方が分からないからまた平良校長に弾きに来てほしい」とみんなが言っていることを知りました)。翌朝の飛行機で日本に戻ったのですが、たくさんの人にお世話になり、「また来ます」と約束をさせていただきました。これは社交辞

台湾実習報告

四年 吉川拓実

2023年8月31日より台湾での実習が始まりました。私にとつては初めての海外で、どことなく緊張の面持ちで出発しました。台湾はやはり情勢としても中国との因縁のある国というイメージが強く、どういふ国なのかと思う所がありました。行く先々で歓迎に次ぐ歓迎。非常に居心地の良い実習になったと振り返っています。

台北市内はもちろん、山岳地帯の原住民(イエンツーミン)の教会にお邪魔しました。わたしが想像していた以上に原住民の皆さんのフランクでそして、遅く自分たちの民族を誇りに生きている人たちに出会えたことは貴重な経験となりました。(原住民の部落を走る一台のスクーターに4人ぐらゐの小学生が固まって乗っている姿は多分一生忘

令ではなく、再度行かねばならない、と感じたからです。お世話になった皆さま、本当にありがとうございました。特に平良の通訳ですつと付きつ切りだったデイヴンさんに感謝を申し上げます。また農伝からの実習生にいろいろお世話をして下さった先生方、通訳やスタッフの皆さん、教会の皆さん、本当にありがとうございました。

れないと思います)

旅の後半、東海岸の花蓮県にある玉山神学院での生活も記憶に新しいです。それぞれの民族オリジナルの衣装を身にまとい、堂々とした声で讃美歌を歌う姿は言葉を知らない私でも感動しました。学生同士も個性派ぞろいで、年齢も若い人から高齢の人まで在学していました。留学生もちらほらいて、マレーシアとミャンマーの留学生とも出会いました。お話がとても興味深く、そして世界情勢の片鱗を肌で感じるようになりました。

私は初めて海外に行ったのもあつて、とても新鮮な体験でした。そして、台湾に対する考え方ががらりと変わった気がします。昨今の世界情勢の中で、このような素晴らしい経験をさせていただいた玉山神学院、そして農村伝道神学校に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

三年 高柳研二

新型コロナウイルス感染症のためしばらく中断していた台湾実習が久しぶりに再開された。期間は八月三一日から十月二日までの約一カ月間である。私自身は会社勤めの時代に台湾には仕事でよく行っていたので台湾のことにはある程度知っているつもりだったが、よく考えてみると仕事で訪れたのは台北や高雄などの都市部のみ、取引相手は台湾の大手企業で、山間部の町のことや現地のキリスト教についての知識はな

く、更に原住民のことなど何も知らなかったのである。台湾ではまず台湾基督長老教会の総会事務所にて台湾におけるキリスト教事情や長老教会の活動、また原住民における宣教などについて包括的にご説明頂き、それにより先ず知識としてそれらの概要を学んだ。その後には原住民の教会(短時間の立寄りを含めると全部で18教会!)や中会(教区のような組織)の事務所を訪問し、現場で様々な話を聞くことにより、最初に知識として学んだ原住民族のことや長老教会の歴史や現状、更に課題等に関して、それまでの「点」の知識が「線」で繋がっていった。

後半二週間は玉山神学院にて実際の授業に参加させて頂いた(全部で8教科の授業を受講)。それぞれの授業は大変興味深く、それまで学んできたこととの理解を更に深めてくれるものであった。玉山神学院の全体の授業科目をみると、原住民族に関する事を中心に、より社会的な問題に関する学びが多く、その観点では農伝と似たところがあると感じた。玉山神学院では学生たちとの交わりにより、学生たちの教会生活や献身に至った経緯など様々な生の声を聞くことができたことは大変有意義であった。

今回の訪問を通して場所、民族、言葉等は違うけれど、多くの人たちが主を賛美し礼拝を守っていること、また玉山神学院においては様々な民族や年齢の学生が熱心に学んでいることを知ることができたことはこれからのキリスト者として歩みにおいて大変励みになるものであった。

最後に、今回の実習にあたり現地へ受け入れてくださった台湾基督長老教会の関係者、各教会の関係者、また今回の実習をアレンジしてくださった玉山神学院の関係者、通訳の労を取って頂いた牧師等、更に今回送り出してくれた農伝関係者の皆さまに對して改めてお礼を申し上げます。

夏期実習報告

三年 池田昌功

7月10日から3週間北海道の浦河べつるの家という精神障が

いの施設に実習に行く機会を得ました。いくつかのB型施設でいちごのへた取りやごみ回収、畑の草取り、また生活介護施設でメンバーさんと散歩や絵を書いたりして過ごしました。宿泊はグループホームでメンバーさんと一緒に生活しています。ここが注目される理由としては理念が素晴らしい点があります。人生を生きる主体は誰かということを考えさせられる内容です。通常「リカバリー」や「希望」などポジティブな表現が強調される傾向があるのに対して、ここでは、弱さの情報公開、上る人生より降りる人生、安心して絶望できる人生といった理念や表現が好まれてきたとされます。当事者の自己変革よりも、そのまま社会的なネットワークを再構築することを可能としてると言われます。実践されている当事者研究では、当事者が自身の経験や困りごとに向き合い、仲間や支援者と共に、その意味と機能を捉え直していくという取り組みがされています。私はこの実習で一番感じたことは、それぞれがその人生の主体となつて生きようとしているのが伝わってくるということです。実習中は近くの浦河教会で礼拝を守らせて頂きました。この教会はべつるのメンバーさんがほとんどです。ここでは、何かができるのか、何かを持っている

とかは関係ないのです。私は神の前の平等とは何か、そして信仰とは何か？教会とは何かを考へさせられました。この実習を通し、そんなことを今後も考えたいと思った次第です。

三年 高柳研二

今年度の社会実習としては、ぜひ障がい者施設に行きたいと思っていた。これは、大変僥倖な言い方になるが、自分がこれから様々な人に関わっていくであろうと思われる中で、自分自身がそういった人たちをどういう風に受け入れられるのか、またそういう人たちを前にして自分に何ができるのか、ということを知りたいと思っていたからである。農伝のOBで現在滋賀県の近江金田教会にて牧会をされている横田明典牧師にお会いした際に偶々このことを相談したところ止揚学園をご紹介いただいたのである。

止揚学園は、キリスト教精神に基づき1962年に当時居場所のなかった重度知的障がいの子ども達を対象に設立された社会福祉施設で、この大きな特徴の一つは仲間たち（止揚学園では入所者のことを「仲間たち」と呼ぶ）と職員の距離感の近さであると思う。世話する側とされる側なのだが、そこには上下関係や優劣の関係ではない、できる人が当然のようにで

きな人を支える、というような関係ができていくのだ。もちろん職員にとつては仕事として大変なこともあると思うけれど、それでも嫌な顔している人や高圧的な態度で仕事をしている人が全くいない。よくよく考えてみると、何でも一人でできると思っている自分自身でさえ日ごろ意識すらしないところで多くの人たちに様々な形で助けられているのである。そう考えると助け合いの内容の違いは単なる程度の問題に過ぎないのではないかとつい思いに至った。

四年 後藤田由紀夫

また来る前に「その人たちをどう受け入れることができるか」という自分に課した課題が誤りであったことに気が付いた。自分がその人たちを受け入れる、のではなく、自分がその人たちに受け入れられている、ということとを強く感じたのである。これは、仲間たちへの食事、シャワー、洗面等の介助をさせてもらうということは、（仲間たちが意識しているかどうかは別としても）私が仲間たちに受け入れてもらえないとできないことだと思わされたのである。

気付きと学びを得ることができた。また機会を見つけて仲間たちに会いに行きたいと思う。

六月の前期の学期の後半に平良校長から白石教会の話をした。池田牧師と連絡を取り八月一日から教会実習がスタートしました。

初日、白石市役所に昼過ぎに到着し、白石市役所案内で白石市の概要を知りました。コロナ禍での、緊急事態宣言の活動自粛によるものなのか、東日本大震災以降の影響によるものなのか、一九九七年夏に仕事の関係で訪れた時とは、打って変わった様子でした。（それでも『出川哲郎の充電させてもらえませんか！』というテレビ番組で『白石温麺』は全国に知れ渡るものになりました。）仕事でかわった白石市総合福祉センター（1997・3竣工）公立刈田総合病院（2003・3竣工）を見学、それから白石教会に伺いました。

白石教会は人数の多い教会ではありませんが、コロナの影響で、八月中は更に集まりが少ないう状況でした。それでも、牧師館に宿泊し、『おおはし聖経外科医院』で腰の治療のリハビリをしてもらい、教会から週4回通院しました。二〇〇五年二月糖尿病で、北里大学病院に

緊急入院して以来、二泊三日以上の外泊はできませんでしたが、今回は20日間にチャレンジしました。外食を控え、惣菜などを取り入れた自炊の日々でした。

八月十五日は池田牧師夫妻宅で、「飲み会」と称して、牧師夫妻、会員二名、生協配達デリバリー勤務の25歳の青年を加え、夕食会を開きました。その日の午後二で、洗濯・買い物で「みやぎ生協白石店」に出かけた時、抽選会で一等賞ギフト券が当たり、その商品券でオードブル二皿を手に入れ、夕食会は盛り上がりました。

七ヶ宿の奥に住んでおられる教会員をお送りしたり、平日は角田教会を訪ねたり、山元町の復興対策の「やまもとひまわり祭り」を訪れることもできました。

牧師夫妻の会員に対する気配り、関係性の構築に対する前向きな姿勢が印象に残っています。ちなみに池田牧師の説教の極意は、ありのままの自分をそのままぶつけるということでした。秋の神学校日礼拝の3回の説教は、そのようにやってみました。関係性作りのヒントは、自然体が大事であることを学ばされた二十日間でした。

実習報告ではじまるノウデイン・デー

教師 池迫直人

いつしかノウデン・デーの目玉は実習報告になつてきました。本校の夏期実習には、社会実習、教会実習および台湾実習、その他アジア学院に委託して行われる農業実習Ⅲがあります。昨年の夏休みの間に学生たちが、自発的に、あるいは紹介されて経験した実習先は、止揚学園、べてるの家、白石教会、台湾（玉山神学院および台湾長老教会・原住民の教会）でした。

神学校が、知性、理性を重視することは、いうまでもありません。しかし、知性、理性は、全人格の一部、現代社会のさまざまな課題を、現実において体験を経験化する知的なとなみをもつて実習は、醸成されることを、派遣された学生たちは身を以て受けとめたことでしょう。

午前の実習報告会の後、一品持ち寄りの立食形式の昼食、交流、後にキャンパスツアー、平良校長との相談コーナーなどが用意されました。本校に関心のある方は、その週の授業は公開されていますので、ホームページなどで授業内容などをご覧になり、どうぞお気軽にご相談ください。

アドヴェント礼拝報告

教師 石井智恵美

二〇二三年二月一日(金) アドヴェント礼拝が、農伝のチャペルで一七時より執り行われました。今年、スコットランドのアイオナ共同体の式文を用い、また説教者として原町田教会の宮島牧師をお迎えしました。タイトルは「低みに立った難民イエス」。宮島牧師は、長年、滞日外国人の支援活動に関わつてこられ、その経験から貴重なお話をいただきました。

日本聖書神学校時代に神学生として横浜のなか伝道所に通い、渡辺英俊牧師の滞日外国人支援の働きに強い感銘を受けたというところから話が始まりました。神学校卒業後、最初の赴任地は牛久。「不法滞在」の外国人が収監される入管施設の近くの教会で、ともかく現場を知ることで、と渡辺牧師からも背中を押され、入管施設を訪問し次第にその方々の支援活動を始めたそうです。日本の難民認定率は、世界でも桁違いに低く、難民申請をしても認められない人がほとんどです。そのためやむなくオーバーステイになる外国人もまた多く生み出されてしまっています。その人々を接見し励まし、また仮釈放される際の保証人になるという活動を宮島牧師はしておられます。二年前にウイシユマさんというス

リランカ人の女性が、入管施設の中で体調不良を訴えても取り合ってもらえず、見殺しにされるという痛ましい事件が起こりました。この事件を通じて、日本の入管がオーバーステイで施設にいる外国人に対して、いかに非人道的な扱いをしてきたかが明るみに出しましたが、宮島牧師は同じようないくつかの事例を紹介してくれました。そして、イエス・キリストがこの世に無力な赤子としてお生まれになり、しかも生後すぐにエジプトへ逃避行をしたように難民になられた、という事実を、今、難民申請をしながら認められず、日本で苦難を味わっている方々と重ね合わせられました。小さくされた人々と関わり続けている宮島牧師の貴重な働きの中に、私たちは改めてイエス・キリストの愛の業に従う生き方があると、強く心に刻まれました。

なご当日の席上献金は、パレスチナのアハリー・アラブ病院に捧げられました。

行事報告

- ◇十月三日(火) 後期授業開始
- ◇十月一七日(二) 農伝オープンキャンパス、のべ約20名が授業を聴講。
- ◇十月二一日(土) 農伝デー、実習報告会、ポトラック昼食会、キャンパスツアー、学生会による物品販売(ACEF、アジアキリスト教育基金)、

西東京朝鮮第二初中級学校、チリからの難民申請者支援、アジア学院)、後援会による物品販売(後援会グッズ、沖縄の食材等)。約60名来場。

- ◇神学校日礼拝派遣
- 十月八日 横浜港南台教会、埼玉通り教会、上大岡教会、林間つきみ野教会、小諸教会、鶴川北教会
- 十月一五日 三・一教会、三鷹教会、相武台教会
- 十月二二日 愛川伝道所、埼玉和光教会、金沢八景教会、十月二九日 高座渋谷教会、横浜二ツ橋教会、大泉教会、城西教会
- 十一月九日 本所緑星教会
- ◇十二月一日(金) アドベント礼拝「低みに立った難民イエス」説教：宮島牧師(原町田教会)
- ◇十二月五日(火) 一八日(金) 集中講義「グローバルキリスト教史」大倉一郎
- ◇十二月一一日(月) 一六日(土) 集中講義「接心」
- ◇一月二四日(水) 農伝伝道シンポジウム「私が出会った人々ーハンセン病療養所教会と長島聖書学舎からー」北陸の教会で」講師：佐藤徹牧師
- ◇二月二日(金) 後期授業終了
- ◇二月一四日(水) 卒業論文発表会
- ◇三月六日(水) 第74回卒業式

同窓生等個人消息

任地が変わった等で掲載可の連絡の取れた方を記載させていただきます。移動など変更のある同窓生の方がおられましたら、神学校事務までご連絡いただければ感謝です。

逝去

- 一 安部一徳(神46) 北見望ヶ丘教会教師十月十日逝去(五五歳)
- 二 林正史(神47) ささしま共生会一二月二六日逝去(六四歳)
- 三 山田嘉三(神7) 隠退教師一月一六日逝去(九六歳)
- 四 吉武誠(神5) 隠退教師二月一日逝去(九一歳)
- 五 佐藤謙吉(神13) 隠退教師二月三日逝去(八四歳)
- 移動
- 一 森起美恵(神44) 教師隠退
- 二 竹花牧人(神65) 阿久根教会辞任

訂正とおわび

前号の同窓生消息に記載しました藤田清さんは日本キリスト教会教師隠退ではなく、単立教会教師隠退でした。訂正しておわびいたします。

校長より

神学教育連合会(JATE)でいろいろな神学校のスタッフと話をしていると、どの

神学校も入学希望者が激減していると感じます。農伝も同様です。多くの支援をいただいているにも関わらず、学校として十分にアピールできていないのではないかととても心苦しい限りです。もっと積極的に農伝の存在やその中身をアピールしていかねばと思つていると同時に、もっと入学しやすい学校にするにはどうしたらいいのか、かと言つて入りやすい学校がいいのか、と模索を続けています。

一方、聴講生は増える傾向にあります。特に今年度開講した「宣教学特講」は好評で、毎回何人もの聴講生も参加していました。次年度も続けられればと思つています。乞うご期待。こんなテーマで開講されるなら聴講したいというリクエストも歓迎です。

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024

Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711

Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp

ホームページ: https://noden.ac.jp/

振替番号

学校法人鶴川学院 00140-7-635524